

科目ナンバー： BC3033

授業コード： 2230300300

講義科目名称： 老年看護学演習

英文科目名称： Practice in Gerontological Nursing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
◎東條紀子、原等子、青山拓夢、小長谷百絵			
添付ファイル			

授業種類	【開講】 前期	【授業時間】 15時間		
	【担当教員】			
	【氏名】	【所属】	【研究室】	【メールアドレス】
	◎東條 紀子	新潟県立看護大学	308	toujou@niigata-cn.ac.jp
	原 等子	新潟県立看護大学	303	naohara@niigata-cn.ac.jp
	青山 拓夢	新潟県立看護大学	共同研究室4	taaoyama@niigata-
	cn.ac.jp			
	小長谷 百絵	新潟県立看護大学	213	konagaya@niigata-
	cn.ac.jp			
	実務経験のある教員が担当します			
	【本学の科目区分】 専門科目			
	【保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める種類】 看護師課程			
	【DP1】 【DP2】 【DP3】 【DP4】 【DP5】 【DP6】 【DP7】 ○ ◎ ○			

到達目標	1. 高齢者の個別性をふまえた看護過程（情報収集から看護計画立案，実施，評価のサイクル）を根拠をもとにして論理的に説明できる。 2. 高齢者の個別的な能力とリスクを考慮した生活の支援技術を実施できる。 3. グループメンバーと協同し、学修課題達成に向けた学修を主体的に参加できる。			
授業概要	高齢者の潜在能力と生活の質に着目し、高齢者のQOLの維持、対象の「強み」を引き出し、目標志向型思考での看護過程を展開するための基礎的能力の修得を目指す。加齢による心身社会的な機能の変化に加え、慢性疾患、身体障害、認知機能障害などを複雑に併せ持つ高齢者の状態変化を察知するための能力と看護計画と連動したケアの実践について学ぶ。			
授業計画	1	授業内容 授業形態：講義 対面 学修課題：ガイダンス 学修内容：老年看護の原則と看護過程と看護技術手順書，ケアの個別性 事前学修：看護過程の展開に向けた事例に関する病態・治療・看護等 事後学修：情報シート、アセスメントシート 備考：東條，原，小長谷，青山		
	2	授業内容 授業形態：演習 グループワーク 対面 学修課題：高齢者のリスクを踏まえた自立をたかめる技術手順の検討① 学修内容：高齢者の老化および疾患や障害による心身機能を踏まえた看護技術の実践方法（口腔ケア） 事前学修：口腔ケア 技術手順書 事後学修：口腔ケア ワークシート 備考：原，東條，青山		
	3	授業内容 授業形態：講義 演習 グループワーク 対面 学修課題：看護過程 目標志向型思考による看護の焦点の探索 学修内容：ストレングスに着目した看護の視点を考える 事前学修：情報シート、アセスメントシート 事後学修：全体像把握シート、看護計画シート 備考：東條，原，青山		
	4	授業内容 授業形態：演習 グループワーク 対面 学修課題：高齢者のリスクを踏まえた自立をたかめる技術手順の検討② 学修内容：高齢者の老化および疾患や障害による心身機能を踏まえた看護技術の実践方法（移動支援） 事前学修：移動 技術手順書		

	事後学修：移動 ワークシート 備考： 青山，東條，原 5 授業内容 授業形態：演習 グループワーク 対面 学修課題：高齢者のリスクを踏まえた自立をたかめる技術手順の検討③ 学修内容：高齢者の老化および疾患や障害による心身機能を踏まえた看護技術の実践方法（食支援・ポジショニング） 事前学修：食支援 技術手順書 事後学修：食支援 ワークシート 備考： 青山，原，東條 6 授業内容 授業形態：講義 演習 グループワーク 対面 学修課題：看護過程 具体的な看護支援を考える 学修内容：強みを活かしたケア方法を考える 事前学修：看護計画シート 事後学修：生活機能を高めるための計画・技術手順書 備考： 東條，原，青山 7 授業内容 授業形態：演習 グループワーク 対面 学修課題：高齢者のリスクを踏まえた自立をたかめる技術手順の検討④ 学修内容：高齢者の老化および疾患や障害による心身機能を踏まえた看護技術の実践方法（排泄援助） 事前学修：排泄援助 技術手順書 事後学修：排泄援助 ワークシート 備考： 東條，青山，原 8 授業内容 授業形態：講義 対面 学修課題：総括 学修内容：高齢者ケアにおけるリスクマネジメントと行動計画の必要性 事前学修：修正した技術手順書一式 事後学修：修正した看護過程記録一式 備考： 東條，原，青山，小長谷
評価方法、評価基準	到達目標1～3に対し、 看護過程提出物：30%、技術手順書提出物：40%、成果発表（技術試験）：30%として総合評価を行う。
必携図書	水谷信子他監修（2025）：最新老年看護学 第4版，日本看護協会出版会。（購入済） 亀井智子編（2023）：根拠と事故防止からみた老年看護技術 第3版，医学書院。（購入済）
参考図書・資料等	1) 北川公子他（2025）：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 第10版，医学書院。 2) 山田律子他編（2025）：生活機能からみた 老年看護過程 第5版，医学書院。 3) 迫田綾子編（2023）：誤嚥予防，食事のためのポジショニング POTTプログラム，医学書院。 4) 西村かおる：排泄ケアブック コンチネンスケアに強くなる，学研マーケティング，2009。 5) 中島紀恵子他監修（2010）：高齢者の生活機能再獲得のためのケアプロトコル 連携と協働のために，日本看護協会出版会。 *上記の他，老年看護学Ⅰ，Ⅱで使用した図書ならびに配布資料
受講、課題、資料配布等のルール	初回にコース概要を配布。追加資料がある場合は演習開始時間前に配布します。 各回の演習内容によって集合時間、場所が変則的になるので各自留意して参加してください。 欠席の場合は必ず担当教員に事前に連絡をしてください。 出席日数が規定に満たない場合、試験を受けることが出来ません。
教員からのメッセージ	自己学習を実施したうえで講義・演習に臨みましょう。 具体的に実習で高齢者をケアしていくイメージが持てるよう，既習知識を踏まえて，高齢者のケアの考え方（尊厳，自立，参加，リハビリテーションなど）について考えてみましょう。 ユマニチュードは基本です。加えて，バリデーションテクニック，パーソンセンタード・ケアについて学習しておく，実践でのコミュニケーションスキルが高まります。 事前に自己学習した内容と演習での学びを合わせ，多様な高齢者に対する具体的な看護の方法を想像して，実習での実践に向けた技術を練習していきましょう。 これからの学修は，既習の知識や技術を実践で活かすため，主体性が求められます。そして，倫理的な観点での思考も重要です。現場ではリスク回避を優先するあまり，様々な制限を対象者に課すことありますが，それが正義といえるのか。高齢者の持つ強みや潜在能力に着目し，対象者の持てる力を活かした自立支援のあり方を追求していくことで，人としての尊厳を守る実践の難しさややりがいを感じてきましょう。
オフィスアワー	全教員 在室時対応可能 メール等で対応可能